修学旅行新聞

3年3組

柳木 [redacted]

―スローガン―

京都・奈良へいざ出陣

〜古都し、一番の旅に出かけよう〜

―メンバー―

・青木萌　・小澤くるみ
・加藤拓丸　・佐藤来夢
・戸田智郁　・柳木萌花
・野尻夢樹　・森戸蓮
・山口亮

―日程―

〈一日目〉

〜奈良〜

法隆寺 ― 東大寺 ― 宇治平等院

〈二日目〉

〜京都〜

嵐山 ― 仁和寺 ― 龍安寺 ― 金閣寺 ― 建仁寺 ― 祇園 ― 京都タワー

〈三日目〉

〜京都〜

清水寺 ― 三十三間堂

〈一日目〉

●東大寺●

東大寺は、奈良時代の中頃に聖武天皇の発願によって創建された。大和の国分寺として建てられたが、盧舎那大仏（るしゃなだいぶつ）が本尊とされたために、大規模な伽藍が営まれた。大仏の髪の毛のくるくるの部分は、九百六十六個もあります。とても大きかったです。

●宇治平等院●

平等院は永承七年（一〇五二）関白藤原頼道によって父道長の別荘を寺院に改め創建されました。その翌年の天喜元年（一〇五三）に阿弥陀如来を安置する阿弥陀堂が建立され、その建物が現在鳳凰堂と呼ばれている。経典に描かれる浄土の宮殿をイメージした、優美で軽快な建物です。十円玉にも描かれています。

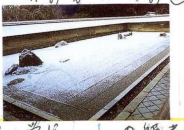
〈二日目〉

●仁和寺●

仁和寺の歴史は平安時代、第58代光孝天皇が西山御願寺として着工されたのに始まります。仁和四年宇多天皇が先帝の遺志を継がされ、仁和寺を完成されました。

●龍安寺●

徳大寺家の別荘だったのを宝徳二年（四五〇）管領細川勝元が譲り受けて寺地とし、妙心寺の義天玄承を開山として創建されたものである。石庭は、東西二十五メートル、南北十メートルの空間に白砂を敷き詰め、十五個の石を配したものです。極端なまでに象徴化されたこの石庭の意味は迷に包まれており、見る人の自由な解釈に委ねられています。この十五個の石はどこから見ても全て見れないといわれており、私も見たら本当に見えませんでした。



●金閣寺●

お釈迦様の舎利（お骨）をまつった舎利殿「金閣」が特に知られ、金閣寺と呼ばれています。が、正しくは「鹿苑寺」と言い、臨済宗相国寺派の禅寺です。この地は、鎌倉時代に西国寺公経の別荘「北山第」が在りましたが、足利三代将軍義満が気に入り、応永四年（一三九七）に西国寺家から譲り受け、山荘「北山殿」を造りました。一九九四年、世界文化遺産に登録されています。それに、壁に五本線がある建物は格式が高いそうです。

●建仁寺●

臨済宗建仁寺派の大本山。開山は栄西禅師。開基は源頼家。鎌倉時代の建仁二年（一二〇二）の開創で、寺名は当時の年号から名づけられています。山号は東山。八百年の時を経て、今も禅の道場として広く人々の心のよりどころとなっています。私も、心がおちつく場所だと思いました。

〈三日目〉

●三十三間堂●

国宝三十三間堂は、正しくは蓮華王院という千手観音信仰の道場で「三十三間堂」の名の由名は、南北に百二十五メートルもある長大な御堂内の柱の間数が三十三あることにちなんでいます。平安時代の末、後白河上皇が創建（一一六四）し、約八十年後に一度焼失したが、鎌倉時代（一二六六）に後嵯峨上皇によって再建されました。千体千手観音像は、七十八余りの造仏師が一体一体心をこめて創りあげた装飾性の高い仏像です。

―感想―

私は京都と奈良に行き、日本の文化を学ぶことができました。京都で印象に残ったことは金閣です。金がたくさんはってあり、池に反射しているときがとてもきれいでした。

この三日間はとてもいい思い出になりました。